

マイサーバーサービス 利用マニュアル
(DNS サーバー設定)

マイサーバーVPS compact

RIMNET <http://www.rim.or.jp/support/>

Members Guide Book **2010/07**

はじめに

本利用マニュアルでは、マイサーバーVPS compact の「DNS サーバー」の設定を解説します。

目次

はじめに	1
目次	1
1. DNS サーバー設定	2
1-1. 概要	2
1-2. 基本設定	2
1-3. ドメイン情報管理	4
1-4. ドメイン追加	7
1-5. ドメイン追加	9
1-6. スレーブ追加	12
1-7. 問い合わせ転送設定	13
1-8. 逆引きゾーン追加	14
1-9. レコード管理・追加	16

1. DNS サーバー設定

1-1. 概要

HDE Controller にログインし、「DNS サーバー」のアイコンをクリックします。
次項の項目に従って設定及び確認を実施してください。

1-2. 基本設定



●DNS サーバーの管理

◎DNS サーバーとは・・・

コンピューターの名前と IP アドレスの対応を管理しています。

例えば、私たちがインターネットの URL (住所) を打ち込んだ場合 にその URL を管理しているサーバーのホスト名 (FQDN) に対応する IP アドレスを私たちのコンピューターに教えてくれる役割をしています。

DNS サーバーを正しく設定しないと、ホスト名やドメイン名を指定しても全く外部からアクセスすることができなくなります。

●基本設定

基本設定	
DNSサーバー全体に関する設定を行います。	
サーバーバージョン表示	<input type="checkbox"/> 表示しない
ポート	<input type="checkbox"/> リモートDNSサーバーへの問い合わせを下記ポート番号で行う ポート番号 <input type="text" value="53"/>
問い合わせ転送	<input type="checkbox"/> 問い合わせを転送する 転送タイプ <input type="text" value="first"/> 転送先IPアドレス <input type="text"/>
問い合わせ許可ホスト	<input checked="" type="radio"/> 全ホスト <input type="text" value="許可"/> <input type="radio"/> アドレス指定 <input type="text"/>
ゾーン転送許可ホスト	<input checked="" type="radio"/> 全ホスト <input type="text" value="許可"/> <input type="radio"/> アドレス指定 <input type="text"/>
再帰的問い合わせ許可ホスト	<input checked="" type="radio"/> 全ホスト <input type="text" value="許可"/> <input type="radio"/> アドレス指定 <input type="text"/>

「問い合わせを許可するホスト」について通常は「全てのホストを許可」に設定します。

「ゾーン転送を許可するホスト」は、「アドレス指定」で同じセグメントのネットワークと、スレーブサーバーの IP アドレスを指定します。

その他の設定は通常は変更する必要はありません。

キャッシュサーバーへの再帰的な問合せを制限したい場合は、再帰的問い合わせ許可ホストにネットワークアドレス（ネットワーク長を含めた CIDR 表記）または IP アドレスで指定してください。

DNS サーバーのサービスを提供する BIND のバージョンを外部に公開しないようにする場合、サーバーバージョン表示にチェックを入れてください。



リモート・DNS サーバーへの問い合わせは query-source

転送先サーバーIP アドレスは forwarders

問い合わせを許可するホストは allow-query

ゾーン転送を許可するホストは allow-transfer

再帰的問い合わせ許可ホストは、allow-recursion

の各項目が設定されます。

プロバイダからDNSサーバーの指定がある場合には、「問い合わせを転送する」にチェックを入れ、「転送タイプ」を first に、「転送先サーバーIP アドレス」にプロバイダから指定されているDNSサーバーを指定します。これにより、DNSの問い合わせのパフォーマンスがアップします。

最後に「設定する」ボタンをクリックして、設定を保存します。

1-3. ドメイン情報管理



○ドメイン情報の編集

ドメイン情報の編集を行います。

ゾーン種別がマスターのゾーンの「編集」をクリックすると、このゾーンに関する下記の情報を編集することができます。変更の必要な場合のみ行ってください。

ゾーンexample.comの情報を編集します。

ゾーン管理権限を持つマスターサーバー名	kes1.example.com
管理者メールアドレス	root@example.com
問い合わせを許可するホスト	any
ゾーン転送を許可するホスト	192.168.0.x
ゾーン変更通知するホスト	
レコードキャッシュ保持期間(秒)	86400
リフレッシュ間隔(秒)	10800
リトライ間隔(秒)	3600
有効期間(秒)	1209600
ネガティブキャッシュ保持期間(秒)	86400

OK Cancel

⚠ 設定ファイルに変更を反映するには、上のOKボタンを押し、次に表示されたページの下にある「設定する」ボタンをクリックして下さい。

○ゾーン管理権限を持つマスターサーバー名

ゾーンファイルのもとになるデータを管理するマスターサーバー名を FQDN 形式で指定します。通常は、変更する必要はありません。

○管理者メールアドレス

このゾーン情報の管理者のメールアドレスを指定します。

○問い合わせを許可するホスト

このゾーンに対する問い合わせを許可するホストを指定します。

IP アドレス、あるいは、ホストの属するネットワークを CIDR 形式で入力してください。

全てのホストに許可する場合は「any」

全てのホストを拒否する場合は「none」で指定することもできます。

○ゾーン転送を許可するホスト

このゾーンのゾーン情報の転送を許可するホストを指定します。

IP アドレス、あるいは、ホストの属するネットワークを CIDR 形式で入力してください。

全てのホストに許可する場合は「any」

全てのホストを拒否する場合は「none」で指定することもできます。

○ゾーン変更通知するホスト

ゾーンデータが更新されたことを通知するスレーブサーバーを IP アドレスで指定します。

複数の IP アドレスを指定したい場合は、カンマ区切りで入力してください。

○レコードキャッシュ保持期間(秒)

レコードの問い合わせを行ったクライアント側のキャッシュにレコード情報をどの期間保持するかを秒で指定します。

○リフレッシュ間隔(秒)

スレーブサーバーがこのゾーンのシリアル番号をチェックする間隔を秒で指定します。

スレーブサーバーは指定した秒間隔でシリアル番号のチェックを行い、番号に変更があればスレーブサーバーにゾーン情報を転送します。

小さい数値に設定した場合、マスターサーバーの内容は直ぐにスレーブサーバーに反映されますが、ネットワークの帯域をより多く使います。

ゾーン追加時の初期値は、10800 秒(3 時間)に設定されます。この項目は、通常変更の必要はありません。

○リトライ間隔(秒)

上記のリフレッシュ間隔が過ぎてもマスターサーバーに接続できない場合、どれくらいの間隔でリフレッシュの再試行を行うかを秒で指定します。ゾーン追加時の初期値は、3600 秒(1 時間)に設定されます。この項目は、通常変更の必要はありません。

○有効期間(秒)

スレーブサーバーがマスターサーバーに接続できない時、どれくらいの期間現在持っているゾーン情報のコピーを利用できるかを秒で指定します。この期間を過ぎてもマスターサーバーに接続できない場合は、そのゾーン情報を破棄してゾーンの問い合わせに返答しないようになります。

但し、マスターサーバーへの接続は続けられます。この値は、リトライ間隔や後述のネガティブキャッシュ保持期間の値よりも大きくなければなりません。

ゾーン追加時の初期値は、1209600 秒(14 日間)に設定されます。

この項目は、通常変更の必要はありません。

○ネガティブキャッシュ保持期間(秒)

ネガティブキャッシュの保持期間を秒で指定します。

ネガティブキャッシュとは、「存在しないドメイン名である」という問い合わせ失敗のキャッシュです。ゾーン追加時の初期値は、86400 秒(24 時間)に設定されます。この項目は、通常変更の必要はありません。

○ドメイン情報の削除

作成済みのドメインを削除する場合には、削除したいドメインの「アクション」で、「削除ボタン」をクリックします。

その後、「設定ボタン」をクリックして、ドメインを削除してください。

1-4. ドメイン追加



ここで設定したドメインを使用するためには、レジストラに正しく DNS サーバーの登録ができていないか、上位サーバーから正しく権限が委譲されている必要があります。

ドメインを登録したレジストラなどで、正しく DNS サーバーが登録されているかを確認してください。正しくドメインを登録したレジストラに登録されていない場合には、ここで設定しても外部から使用することができないので、メールが届かない、Web ページが見つからないなどの問題が発生します。

「DNS サーバー」の「ドメインの追加」をクリックしてください。

ドメイン追加

新たにドメインを追加します。
ここで設定するドメインはこのサーバーがドメイン管理権威を持ち、すなわち上位のドメインの DNSサーバーにより権威を委任されたドメインのマスターデータを持ち、そのデータの問い合わせを受けようになります。

ネットワークアドレス選択 現在のシステムのネットワークアドレス その他

ネットワーク種別選択
「その他の専用線」を選択した場合は下記の逆引きプレフィックスを入力してください。
逆引きプレフィックス .xxxxxxxx.in-addr.arpa

ドメイン名

管理者メールアドレス

スレーブサーバーのホスト名

スレーブサーバーのIPアドレス

逆引きゾーンを自動作成する。



ここで設定されるのはプライマリのマスターサーバーになります。スレーブサーバーは「スレーブ追加」で作成してください。

○「ネットワークアドレス選択」

ここで作成するドメインを公開するネットワークのアドレスを入力します。通常、サーバーマシンにつけられているネットワークが表示されているので、作成したいドメインのネットワーク IP アドレスを選択してください。



サーバーマシンのネットワーク空間と、作成するドメイン空間が異なる場合には、「その他」を選択し、グローバル IP アドレスの空間を入力します。

○「ネットワーク種別選択」

- ・ ネットワークの逆引きのゾーンの形式を決定するために選択、入力します。
逆引きが委譲されていないネットワークやドメインの場合どれを選択しても構いません。
- ・ LAN 内で使用する場合
LAN を選択し、専用線をご利用の場合にはプルダウンから選択してください。
プルダウンで選択できる形式は、オンラインヘルプに記載されています。
- ・ これ以外の形式の場合には、「その他の専用線」を選択後、下のフォームでプレフィックスを入力します。

○ドメイン名には作成するドメイン名を記入します。

○管理者のメールアドレスには、DNS の管理者のメールアドレスを入力します。

hostmaster@ドメイン名などの名称が使われる場合が多いです。

○「スレーブサーバーのホスト名」には、このゾーンを補助的に管理するサーバーのホスト FQDN で入力してください。プロバイダ等からスレーブサーバー(スレーブサーバー)を指定されている場合には、そのホスト名を入力してください。スレーブサーバーが存在しない場合等には空欄のまま構いません。スレーブ DNS サーバーがある場合には、それぞれホスト名と IP アドレスを入力します。

逆引きゾーンの自動作成のチェックボックスを選択すると、逆引きゾーンも自動で作成されます。正引きゾーンだけを作成したい場合は、チェックボックスのチェックを外してください。

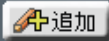
全て入力したら、「進む」をクリックします。

追加したドメインに、設定するホストを追加します。

ホスト追加

example.co.jpドメインにホスト(コンピューター)を登録します。

ホスト種別? DNSサーバー
 ホスト名?
 値?



予約済みレコード一覧

ホスト名	ホスト種別	値

← 戻る
✖ キャンセル
設定する →

ホストの種別でホストを選択

ドメインに登録したいホスト名、そしてそれに対応する IP アドレスを入力「追加」をクリックすると下のレコード一覧に追加されていきます。

ホスト名には、最後に「.」(ドット)をつけた FQDN を入力します。

www.example.com というホスト名を指定したい場合、「www.example.com.」と入力。

DNS サーバーとして最低でも 1 レコード(自分自身)登録する必要があります。

メールサーバーを登録したドメインで運用するには、メールサーバーを最低 1 レコード登録する必要があります。

全てのサーバーを追加し終わったら、「設定する」をクリックし、設定を完了させます。

ここで全てのサーバーを設定しなくても「レコード管理」メニューであとから追加することもできます。

1-5. ドメイン追加

●ドメイン追加



ここで設定したドメインを使用するためには、レジストラに正しく DNS サーバーの登録ができているか、上位サーバーから正しく権限が委譲されている必要があります。

ドメインを登録したレジストラなどで、正しく DNS サーバーが登録されているかを確認してください。正しくドメ

ンを登録したレジストラに登録されていない場合には、ここで設定しても外部から使用することができないので、メールが届かない、Web ページが見つからないなどの問題が発生します。

「DNS サーバー」の「ドメインの追加」をクリックしてください。

ドメイン追加

新たにドメインを追加します。
ここで設定するドメインはこのサーバーがドメイン管理権威を持ち、すなわち上位のドメインの DNSサーバーにより権威を委任されたドメインのマスターデータを持ち、そのデータの問い合わせを受けようになります。

ネットワークアドレス選択 現在のシステムのネットワークアドレス その他

ネットワーク種別選択
「その他の専用線」を選択した場合は下記の逆引きプレフィックスを入力してください。
逆引きプレフィックス .xxxxxxx.in-addr.arpa.


ドメイン名

管理者メールアドレス

スレーブサーバーのホスト名


スレーブサーバーのIPアドレス

逆引きゾーンを自動作成する。

 ここで設定されるのはプライマリのマスターサーバーになります。スレーブサーバーは「スレーブ追加」で作成してください。

○ 「ネットワークアドレス選択」

ここで作成するドメインを公開するネットワークのアドレスを入力します。通常、サーバーマシンにつけられているネットワークが表示されているので、作成したいドメインのネットワーク IP アドレスを選択してください。

 サーバーマシンのネットワーク空間と、作成するドメイン空間が異なる場合には、「その他」を選択し、グローバル IP アドレスの空間を入力します。

○ 「ネットワーク種別選択」

- ・ ネットワークの逆引きのゾーンの形式を決定するために選択、入力します。
逆引きが委譲されていないネットワークやドメインの場合どれを選択しても構いません。
- ・ LAN 内で使用する場合
LAN を選択し、専用線をご利用の場合にはプルダウンから選択してください。
プルダウンで選択できる形式は、オンラインヘルプに記載されています。
- ・ これ以外の形式の場合には、「その他の専用線」を選択後、下のフォームでプレフィックスを入力します。

○ドメイン名には作成するドメイン名を記入します。

○管理者のメールアドレスには、DNS の管理者のメールアドレスを入力します。

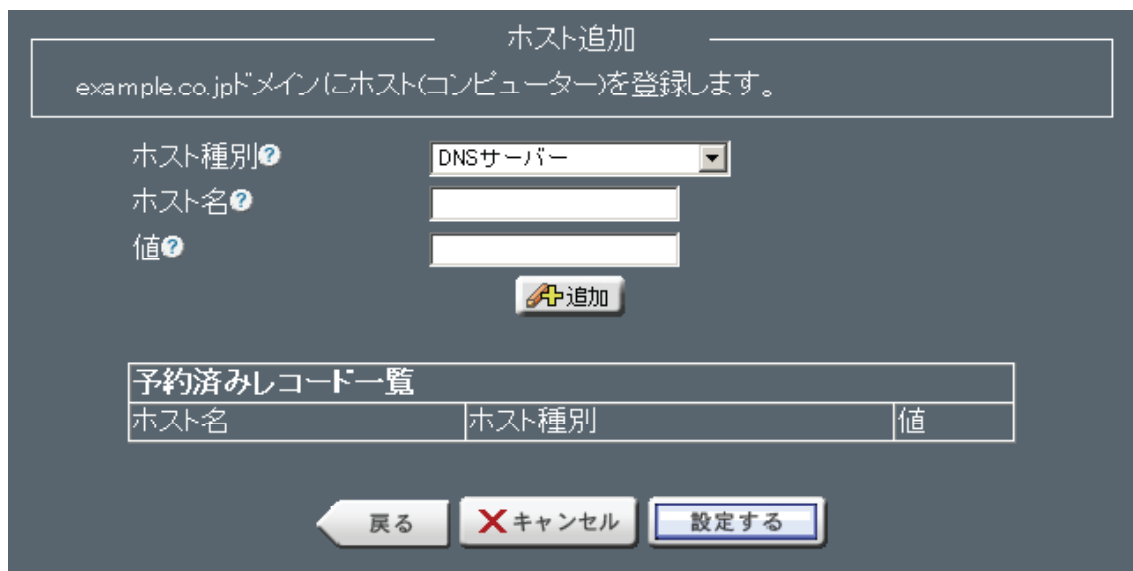
hostmaster@ドメイン名などの名称が使われる場合が多いです。

○「スレーブサーバーのホスト名」には、このゾーンを補助的に管理するサーバーのホスト FQDN で入力してください。プロバイダ等からスレーブサーバー(スレーブサーバー)を指定されている場合には、そのホスト名を 入力してください。スレーブサーバーが存在しない場合等には空欄のまま構いません。スレーブ DNS サーバーがある場合には、それぞれホスト名と IP アドレスを入力します。

逆引きゾーンの自動作成のチェックボックスを選択すると、逆引きゾーンも自動で作成されます。正引きゾーンだけを作成したい場合は、チェックボックスのチェックを外してください。

全て入力したら、「進む」ボタンをクリックします。

追加したドメインに、設定するホストを追加します。



ホスト名	ホスト種別	値
------	-------	---

ホストの種別でホストを選択

ドメインに登録したいホスト名、そしてそれに対応する IP アドレスを入力

「追加」をクリックすると下のレコード一覧に追加されていきます。

ホスト名には、最後に「.」(ドット)をつけた FQDN を入力します。

www.example.com というホスト名を指定したい場合、「www.example.com.」と入力。

DNS サーバーとして最低でも 1 レコード(自分自身)登録する必要があります。

メールサーバーを登録したドメインで運用するには、

メールサーバーを最低 1 レコード登録する必要があります。

全てのサーバーを追加し終わったら、「設定する」ボタンをクリックし、設定を完了させます。

ここで全てのサーバーを設定しなくても「レコード管理」メニューであとから追加することもできます。

1-6. スレーブ追加



インターネットでは DNS の仕組みはとても重要であるため、DNS サーバーは複数台設置するのが一般的です。

ある一台のサーバーをマスターDNS サーバーとして、残りのサーバーをスレーブ DNS サーバーとして構築します。

スレーブ DNS サーバーは、マスターDNS サーバーの情報が更新されると、自動的にデータをコピーしてくることによって、管理を省力化することができます。

ドメインのスレーブ DNS サーバーを構築する場合「スレーブ追加」をクリックして、作成します。

The image shows the 'スレーブ追加' (Add Slave) configuration form. It has a title 'スレーブ追加' and a text box explaining that it adds a slave zone and manages zone information. Below the text box are two input fields: 'ドメイン名' (Domain Name) and 'マスターサーバーのIPアドレス' (Master Server IP Address). At the bottom is a '設定する' (Set) button.

スレーブ DNS サーバーを構築するには、マスターDNS サーバー側でゾーン転送が許可されていないと構築することができませんので、ご注意ください。

「ドメイン名」には構築するドメイン名を入力

「マスターサーバーの IP アドレス」にはマスターサーバーの IP アドレスを入力。

その後、「設定する」をクリックし、登録を完了します。

1-7. 問い合わせ転送設定



このメニューでは、特定のゾーン宛ての問い合わせを、他のサーバーへ転送する設定をすることができます。通常は使用しない高度な設定となります。

The screenshot shows the '問い合わせ転送設定' (Transfer Settings) configuration page. The title is '問い合わせ転送設定'. Below the title is a message: '指定したゾーンに対する問い合わせの転送設定を行います。' (We will perform transfer settings for the specified zone's inquiry). The form contains three input fields: 'ゾーン名' (Zone Name) with a question mark icon, '転送タイプ' (Transfer Type) with a dropdown menu showing 'first', and '転送先サーバーIPアドレス' (Transfer Server IP Address) with a question mark icon. Below the fields is a button labeled '追加' (Add) with a plus sign icon.

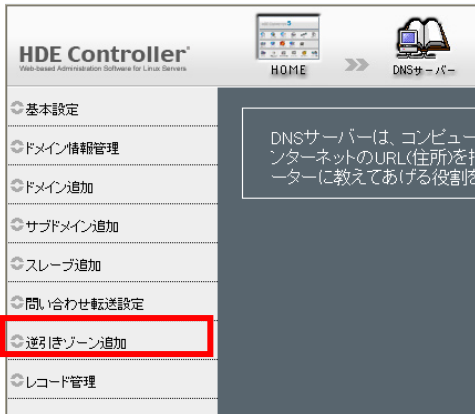
問い合わせ転送を行いたいゾーン名を入力します。ここで指定するゾーン名はドメイン名のような正引きゾーン名だけでなく、逆引きゾーン名も指定可能です。

転送タイプを指定します。

【first】 まず転送サーバーに問い合わせを行い、応答がなかった場合は自分自身で応答します。

【only】 転送先サーバーのみ問い合わせを行います。転送先サーバーの IP アドレスを指定します。カンマ(,)で区切って複数指定が可能です。

1-8. 逆引きゾーン追加



ここでは、IP アドレスからホスト名へのマッピングを行うマスターゾーンの作成を行います。

マスターゾーンとは、DNS サーバー上にそのゾーンに関するデータをファイルとして持っているゾーンのことをいいます。


The screenshot shows the '逆引きゾーン追加' (Reverse Zone Addition) configuration form. It has a title bar and a main content area. The main content area contains a text box with instructions: '逆引きゾーンの新規作成を行います。逆引きゾーンの作成には、そのゾーンで管理したいIPアドレスの範囲を示すネットワークアドレスと、そのネットワークが構築されているネットワーク種別の情報が必要となります。' Below this are two sections: 'ネットワークアドレス' with radio buttons for '現在のシステムのネットワーク' (selected) and 'その他', and 'ネットワーク種別' with a dropdown menu set to 'LAN'. There are also input fields for '逆引きプレフィックス' and a text field for the suffix '.xxxx.yyyyyy.in-addr.arpa.'. At the bottom are 'キャンセル' and '進む' buttons.

「ネットワークアドレス」に、逆引きゾーンで管理したい IP アドレスの範囲を表すネットワークアドレスを指定します。

ネットワークアドレスの指定は、「システムのネットワーク」に表示されるネットワークアドレス (CIDR 表記) から選択します。

「システムのネットワーク」に作成したいネットワークが表示されていない場合は、「その他」を選択し、逆引きゾーンで管理したい IP アドレスの範囲を表すネットワークアドレスを CIDR 表記で入力してください。

CIDR(Classless Inter-Domain Routing)表記とは・・・

 192.168.0.0/24 のように「アドレス/ネットワーク長」の形式で IP アドレスまたはネットワークアドレスを表す表記方法を CIDR 表記といいます。

ネットマスクが「255.255.255.128」の場合 (2 進表記で「11111111.11111111.11111111.10000000」)、25 ビットがネットワーク ID (ネットワーク長が 25) として利用されることになり、/25 で表すことができます。

「ネットワーク種別」は、「ネットワークアドレス」でネットワーク長が 25 以上のネットワークを指定した場合に選択可能になります。

「その他の専用線」を選択した場合は、逆引きゾーンの先頭に付加するプレフィックスを指定してください。

プロバイダ等でプレフィックスが特定されている場合はその文字列をつける必要があります。

全ての項目を指定した後、「進む」をクリックし、逆引きゾーンへのレコード追加を行います。

「レコード追加」において、まず、NS レコードを追加します。

NS レコードとは、このゾーンの情報を管理するネームサーバーのサーバー名を特定するためのレコードです。

NS レコードを追加するには、「レコード」は空欄のまま、「レコード種別」に「NS」を選択し「レコードの値」にこのサーバーの FQDN を入力し、「追加」ボタンをクリックします。FQDN の指定の際は、FQDN の末尾に「.(ドット)」をつけるのを忘れないように注意してください。


次に、PTR(逆引き)レコードの追加を行います。

レコード	TTL	レコード種別	レコードの値
5		IN PTR	host5.example.com

PTR レコードを追加するには、「レコード」に追加したい IP アドレスの最終オクテットの数値を「レコード種別」に「PTR」を選択し「レコードの値」に IP アドレスに対応させたいホストの FQDN を入力し、「追加」をクリックします。

FQDN の指定の際、FQDN の末尾に「.(ドット).」をつけるのを忘れないように注意してください。

例えば、192.168.0.0/24 のネットワークの逆引きゾーン「0.168.192.in-addr.arpa」に IP アドレス「192.168.0.5」とホスト名「host5.example.com」のマッピングのための PTR レコードを追加する場合は、「レコード」に「5」、「レコード種別」に「PTR」、「レコードの値」に「host5.example.com.」を指定します。



「レコードの値」において末尾にドット「.」をつけず指定をすると、ネームサーバーのゾーンファイル上、末尾に「ゾーン名」が補完され解釈されます。

例えば、ゾーン名「0.168.192.in-addr.arpa」において、「レコードの値」に「host1.example.com」を指定しますと、「host1.example.com.0.168.192.in-addr.arpa」と解釈されてしまいます。このため、「レコードの値」にホスト名を指定する場合、末尾に「.(ドット)」のついた FQDN で指定するようにしてください。上記の例では、「host1.example.com.」を指定する必要があります。

全てのレコードが追加できましたら、「設定する」をクリックして設定ファイルに内容を反映します。

1-9. レコード管理・追加



ゾーン「example.jp」のレコード管理

このゾーンに新規レコードを追加したり、レコードの削除を行うことができます。

レコード追加

レコード?	TTL?	レコード種別?	レコードの値?	
example.jp		IN A		追加

レコードリスト

レコード	TTL	レコード種別	レコードの値	
example.jp	86400	IN NS	lc5.example.jp	削除
example.jp	86400	IN MX 10	mail.example.jp	削除
example.jp	86400	IN A	192.168.166.84	削除
lc5.example.jp	86400	IN A	192.168.166.84	削除
www.example.jp	86400	IN A	192.168.166.84	削除
mail.example.jp	86400	IN A	192.168.166.84	削除
ftp.example.jp	86400	IN A	192.168.166.84	削除

戻る キャンセル 設定する

- 「レコード」には、ホスト名を入力します。
ドメイン部を変更することはできません。
- 「レコード種別」には、どのようなレコードを登録するかを入力します。
- 「レコードの値」には、「レコード」に対応する IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- A レコードの値としてホスト名を入力することはできません。

ホスト名を登録する場合には、必ず末尾に「.」（ドット）を付加するようにします。
レコードを削除するには、各レコードの右側にある「削除」アイコンをクリックします。

全ての設定が終了したら、「設定する」ボタンをクリックします。

以上でレコードの登録及び削除が完了します。

● 「レコード種別」


正引きゾーンの場合

NS レコード/A レコード/MX レコード/CNAME レコード/TXT レコードが選択可能

逆引きゾーンの場合


NS レコード/PTR レコード/CNAME レコード/TXT レコードが選択可能

FTP サーバーの管理



「レコードの値」において末尾にドット「.」をつけず指定をすると、ネームサーバーのゾーンファイル上、末尾に「ゾーン名」が補完され解釈されます。

例えば、ゾーン名「0.168.192.in-addr.arpa」において、「レコードの値」に「host1.example.com」を指定しますと、「host1.example.com.0.168.192.in-addr.arpa」と解釈されてしまいます。このため、「レコードの値」にホスト名を指定する場合、末尾にドット「.」のついた FQDN で指定するようにしてください。上記の例では、「host1.example.com.」と指定する必要があります。



レコード種別で TXT を選択したときは、TXT レコード問い合わせで返答したい文字列を入力します。日本語等のマルチバイト文字列を含めることはできません。

TTL には、このレコードの有効期限を入力します。

省略時は、「DNS サーバー」－「ドメイン情報管理」で該当ドメイン編集画面の

「レコードキャッシュ保持期間(秒)」で指定した値が適用されます。

レコードの削除を行うには、「レコードリスト」中の該当レコードの「削除」をクリックします。

削除を取り消したい場合は、「取消」をクリックします。

全ての設定が終わったら、「設定する」をクリックします。

レコードリストの一覧表のヘッダーフィールド（レコード、TTL、レコード種別、レコードの値）をクリックすると、クリックした項目でソートすることができます。

マイサーバーサービス 利用マニュアル
(DNS サーバー設定)
マイサーバーVPS compact

発行元：株式会社イージェーワークス

発効日：2010年7月9日 rev1

リムネット カスタマーサポートセンターの連絡先

電話窓口：0120-678-309

ファックス：045-472-2777

メー ル：support@rim.or.jp

受付時間：24時間365日

本マニュアルに記載されている内容の著作権は、原則として株式会社イージェーワークスに帰属します。
著作権法により、当社に無断で転用、複製等することはできません。